

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

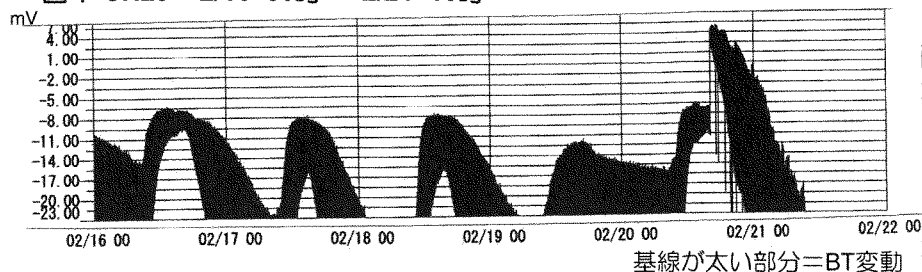
続報 No.322

2022.02/21 (月曜) 15:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

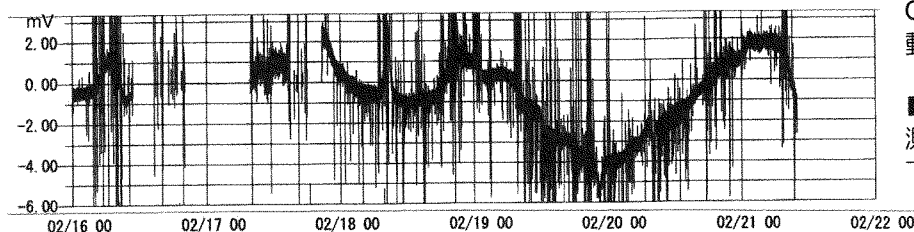
No.1778 続報 CH29・K1 特異変動継続中 4月中発生の可能性否定 5月末前後発生の可能性も考察中 前兆変動終息待ち

図1 CH29 2/16 00時～2/21 10時



No.1778続報です。日々E-mail・FAXで配信しております。観測情報では順次状況報告をしておりましたが、ホームページの方は更新が遅くなり、大変申し訳ございませんでした。継続前兆変動の終息を待って更新するつもりでしたが、時間がかかる可能性が高くなりましたため、本日となりました。

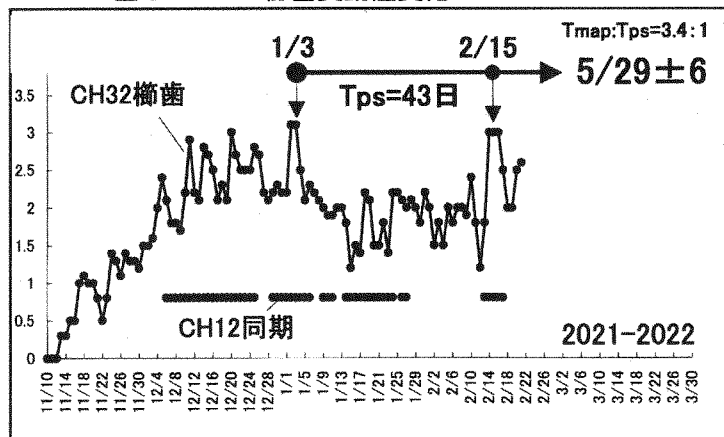
図2 K1 2/16 00時～2/21 10時



■図1はCH29。静穏だった八ヶ岳のCH29に2/20～2/21にかけ明確な特異変動が観測されました。

■図2はK1。2/16～2/17に糸状特異が観測され、2/19以降、基線電圧値が大きく下がる特異変動を観測しました。

図3 CH32楕円変動値変化



■これらから、明日に変動終息が観測された場合でも4月中に対応地震が発生する可能性は否定されず。図3は八ヶ岳のCH32楕円変動の変動値変化グラフです。初現～極大の関係では4月中の可能性も考えられましたが、図3のとおり、2/15に再びピークが観測されました。主極大(1/3)・副極大(2/15)型の変動形態に見えます。主極大が鋭く、副極大が緩やかな場合は、 $Tmap:Tps = \text{平均}3.7:1$ より $3:1$ に近い経験則があります。今回は副極大が緩やかですが、大きな差がないため、 $3.4:1$ 程度の可能性があります。この認識が正しい場合は5月末前後に対応地震発生の可能性が示唆されます。 $Tmap:Tps$ 比は誤差が大きいので、今後の観測でCH29とK1の特異変動の終息時期を確定し、発生日を特定したいと考えます。現状は5月末の可能性考え易い状況です。BTは暫く観測し、掲載したいと考えます。

- ◆推定領域：図4太線内領域内 火山近傍
斜線域＝可能性考え易い参考推定領域
- ◆推定規模：M8. 0 ± 0.3
現状噴火前兆無く関連噴火考え難い
- ◆推定時期：5月末の可能性検討中
継続前兆変動終息確認まで不確定
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：AM 9:00 \pm 2 又は
PM 5:00 \pm 2

図4 推定領域図

